

第一回 平成二十七年十月三十一日(土)

一、『論語』のさまざまな読み方と解釈

実践女子大学教授 影山輝國 13時〜14時30分

二、『論語』のテキストについて

慶応大学附属研究所斯道文庫教授 高橋智 15時〜16時30分

平成二十七年度 実践女子大学・実践女子大学短期大学部公開市民講座

# みんな論語が好きだった

入場無料

実践女子大学 渋谷校舎 二〇周年記念館 五〇一教室 ※事前申込不要

第二回 平成二十七年十一月一日(日)

一、近代文学者の孔子像 ―武者小路実篤を中心に―

二松学舎大学教授 瀧田浩 13時〜14時30分

二、特別講演「宥坐ゆうざの器」製作秘話

現代の名工 針生清司 15時〜16時30分

特別展

二〇周年記念館 一階

香雪記念資料館(企画展示室)

開館時間 11時〜17時

平成二十七年十月二十五日(日)より十一月一日(日)まで、書籍を展示し、「宥坐の器」を展示・実演します。



お問合せ：実践女子大学学務部庶務課 03-6450-6817 kokai-koza@jissen.ne.jp

主催：実践女子大学・実践女子大学短期大学部公開講座委員会

協力：実践女子大学国文学科 実践女子大学・実践女子大学短期大学部図書館

実践女子学園香雪記念資料館 実践女子大学文芸資料研究所

後援：渋谷区教育委員会





# みんな論語が好きだった

## 概要

『論語』は応神天皇のとき日本に伝わったといわれています。日本人が初めて目にした書物が『論語』だったのです。以来われわれの祖先は『論語』を日本の古典として愛読し続けてきました。書き写されたり、出版されたりした『論語』のテキストは数限りなくあります。中国でも多くの注釈書が作られましたが、日本人もすぐれた解釈を生み出しました。近代になっても『論語』の魅力に心酔した文学者は少なくありません。本講座では、日本人がいかに『論語』を愛したかを、テーマごとにわかりやすくお話しします。また特別講演として、「宥坐の器」復元の苦勞話をしていただきます。

## 講演内容

### 『論語』のさまざまな読み方と解釈

日本において『論語』は実にさまざまに訓読されてきました。その読み方の歴史を現代までたどります。また『論語』各章の意味は一定不変のものではなく、時代により学者により多様な解釈が行われてきました。なかでも古注と新注とは大きく意味が変わることがあります。古注・新注とは何か？どんな違いがあるのか、日本人のすぐれた解釈も交えながら、お話しします。

### 『論語』のテキストについて

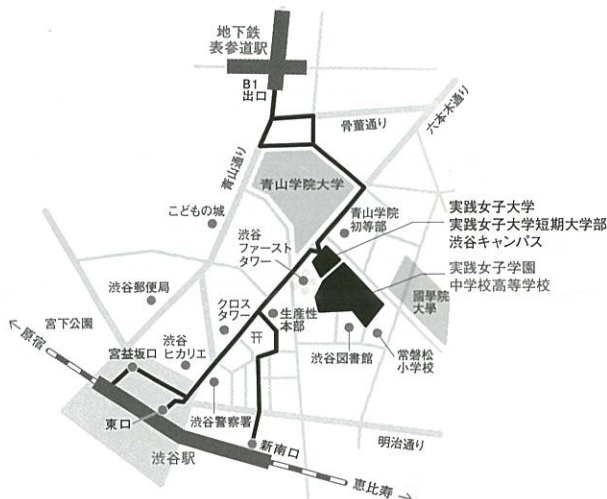
私たちが耳にする『論語』は、もう2000年以上も前から読まれ、日本でも3世紀から、千数百年に亘って読まれてきたのですが、特に、日本では、どのようなテキストが読まれてきたのか、そのおおまかな歴史をお話したいと思います。手書きの写本の時代から、印刷品の時代と、さまざまに姿を変えてベストセラーとなっていることを知っていただきたいと思います。

### 近代文学者の孔子像—武者小路実篤を中心に—

武者小路実篤の孔子像と『論語』の読み方について、他の近代文学者谷崎潤一郎や中島敦たちとの比較も含めながら、考えます。武者小路の振幅の大きな人生の歩みと思想の変遷のなかで、中年期になってから、より深く親しむようになった『論語』。武者小路の思想と孔子の思想の接点をさぐってみたいと思います。

### 特別講演「宥坐の器」製作秘話

2500年前の不思議な器、宥坐の器。孔子は「中がカラのときは傾き、水を入れると真直ぐになり、水がいっぱいになるとひっくり返るのだ」と弟子たちに説明しました。この器は何を意味しているのでしょうか。本当にこんな器があったのでしょうか。苦勞の末、この器を復元完成した現代の名工、針生清司さんにその製作秘話を講演していただきます。実物も展示いたします。



※公開講座・特別展とも参加・入場は無料です。

〈会場〉 実践女子大学 渋谷キャンパス

〈交通アクセス〉 渋谷駅 東口(東急南口) 徒歩約10分

表参道駅(地下鉄) B1出口より徒歩約12分

(駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください)